

茶病虫害防除情報

令和5年2月20日

【第10号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

主要病虫害の生態と防除シリーズ (8)

チャノホソガ (サンカクハマキ)

発生と防除のポイント

製茶品質に影響の大きい重要害虫である。蛹で越冬し、年間の発生回数は6~8回である。概ね新芽生育と合せ発生するが、成虫発生期と新芽の生育期一致する地域、品種園で被害が大きくなる。二・三番茶期の発生は多く、被害も大きい。三角巻葉内に虫糞を充満させ、製茶品質(水赤)を低下させる。新芽の萌芽~2葉期頃に葉裏に産卵し、幼虫は潜葉期、葉縁巻葉期を経て摘採期頃に三角巻葉期となる。

防除は萌芽~1葉期の卵~幼虫潜葉期頃に薬剤散布する。2・3葉期以降の産卵では被害は少ないので、防除の必要はない。

発生生態

害虫の種類	昆虫・鱗翅目
発生の状況	普遍的に発生 被害大
形態と診断	寄生・加害特徴：新葉を三角巻葉加害 茶園の全面に発生 新葉裏面の微小水滴状の卵粒、表皮下潜葉・葉縁巻葉幼虫で確認 成虫：翅の中央に金色の三角形斑紋があり、約4mmで細長い 幼虫：孵化直後の潜葉期幼虫は葉裏表皮下を食害、約0.6mm 葉縁を巻く葉縁期幼虫を経て、三角巻葉幼虫へ発育 三角巻葉幼虫は8~10mmで巻葉内に虫糞を充満 蛹：葉裏に繭を作り、約6mm 卵：葉裏に1粒ずつ産卵 約0.5mm微小水滴状(微小な水滴が付いたように見える)1葉当たり1~6粒 総産卵数20粒

被害の様子	巻葉内の虫糞が製茶品質(特に水色が赤くなる)を著しく低下させる。 巻葉30葉/m ² 以下では影響がなく、100葉/m ² 以上で品質が低下(水赤)。 (三角巻葉量が摘採生葉量の5%未満までは影響はない、5%を越すと、水色が赤みをおび、25%を越すと飲用できない状態になる。 巻葉の褐変落葉で茶芽生育にも幾分影響し、減収被害もある。 チャノホソガ、ミマ、カンザリタガエの好適な生息場所にもなり、これらの発生加害を助長する。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生態・生活史	越冬：蛹(葉裏) 3月~4月に第1回成虫羽化 4月中旬発蛾最盛期 卵期間： 3~7日 潜葉幼虫(1・2齢)期間：7~10日 新葉表皮下潜行で吸液型
--------	---------------------------------------------------------------------------------

葉緑幼虫(3齢)期間：2～4日 新葉組織食害型

三角巻葉幼虫(4・5齢)期間：5～10日 巻葉食害型 巻葉内に糞充満

蛹期間：10～16日 産卵～羽化期間：32～49日

発生消長

年間発生回数は5～7回

2月下旬～4月に越冬世代成虫が発生し、幼虫被害は4月頃・一番茶期から
ほぼ1ヵ月おきに発生

第1世代幼虫：4月下～5月上旬(一番茶芽) 成虫：5中～6月上旬

第2世代幼虫：5月下～6月中旬(二番茶芽) 成虫：6月下～7月上旬

第3世代幼虫：6月下～7月中旬(三番茶芽) 成虫：7月下～8月上旬

第4世代幼虫：7月下～8月中旬(秋芽) 成虫：8月下～9月上旬

第5世代幼虫：8月下～9月中旬(秋芽) 成虫：9月下～10月上旬

第6世代幼虫：10月上～中旬 成虫：10月中～11月上旬

第7世代幼虫：11月中～下旬 成虫：翌年3月下～4月上旬

(第2・3世代の二・三茶への発生被害が大きく、第4・5世代の秋芽に対する発生が多い)

発生条件

成虫発生期と新芽生育期が一致すると(地域・品種)発生が多くなる。

幼木園・中切り更新園などは産卵に適する新芽の生育期間が長いので発生が多くなる。

品種が混在する地域、早生品種園、早場産地で多い傾向がある。

気象との関係は、晩秋期～初冬期の高温は最終世代虫の羽化死滅で、また春先の寒暖差が大きいと越冬密度が低下し、発生が減少する傾向がある。

天敵

影響 中 ハナガミドリヒメコバチ キイロコバチ ホナガコバチ ヒメバチ 天敵ウリス
(秋季は天敵・寄生蜂の寄生率が高くなる)

防除方法

防除のポイント

- ①1葉期頃に新葉への産卵・潜葉幼虫の状況を確認し防除を判断する。
- ②若齢幼虫の潜葉期・1葉期が防除適期、必ず三角巻葉前に防除する。
- ③摘採期が近まり巻葉がみられたら、早めに摘採し、被害を回避する。
- ④防除薬剤のIGR剤は卵期～表皮下潜行幼虫の初期に、その他の薬剤は表皮下潜行幼虫期(潜葉期)に散布する。
- ⑤摘採10日前(2～3葉期)で、卵期の状態であれば防除の必要はない。
- ⑥二・三番茶期は、収穫する新芽の時期の防除のため使用基準の摘採前日数1～7日前薬剤を選んで防除する。
- ⑦2回整枝技術により加害する遅れ芽を除去し、発生を軽減する。
- ⑧秋芽生育期の防除も徹底し、翌年への発生源を少なくする。
- ⑨IGR剤、ジアミド系剤は地域により薬剤抵抗性が発現しているので留意し、地区栽培暦採用薬剤で防除する。

具体的防除方法

薬剤防除方法

防除時期	農薬名	希釈倍数(倍)	使用基準	備考 注意事項
二・三番茶期 萌芽～1葉期	【IGR 脱皮阻害剤】			<ul style="list-style-type: none"> ・葉裏へ産卵、潜葉幼虫を確認して防除すると効果的である。 ・IGR 剤は卵の時期に散布する。また地域により薬剤抵抗性が発生しているので留意する。 ・ジミアト[®]系剤は地域により薬剤抵抗性が発生しているので留意する。 ・ネオコチノイト[®]系剤はウカ、スリップスとの同時防除に適用し、薬剤抵抗性発現を考慮し、1回/年使用とする。本系剤は卵期散布が良い。 ・BT 剤は葉縁巻葉期の散布で、虫糞排出抑制など被害軽減効果がある。 ・BT 剤は JAS 有機栽培、輸出栽培に使用できる。 ・JAS 有機栽培に使用可 〃 〃
	カスケト [®] 乳剤	4000	7 日前 2 回	
	ノモルト乳剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	【IGR 脱皮促進剤】			
	ファルコンフロアブル	4000～8000	7 日前 2 回	
	マトリックフロアブル	1000～2000	7 日前 2 回	
	【ジミアト[®]系剤】			
	エクシレル SE	2000	7 日前 1 回	
	サムコルフロアブル	2000～4000	3 日前 1 回	
	テッパ [®] ン液剤	1000～2000	3 日前 1 回	
	【ネオコチノイト[®]系剤】			
	スタークル顆粒水溶剤	2000	7 日前 2 回	
	アルパ [®] リン顆粒水溶剤	2000	7 日前 2 回	
	ダントツ水溶剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	バリアート [®] 顆粒水和剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	モスピ [®] ラン顆粒水溶剤	4000	7 日前 1 回	
	【BT 剤】			
	エスマルク DF	1000	7 日前 ー	
	サブ [®] リナフロアブル	1000	7 日前 ー	
	チューンアップ [®] 顆粒水和剤	2000	前日 ー	
レピ [®] クリーン DF	500～1000	前日 ー		
【その他の剤】				
アグリメック	1000	7 日前 1 回		
アフーム乳剤	1000～2000	7 日前 1 回		
アフームエクセラ顆粒水和剤	1000	7 日前 1 回		
ディアナ SC	2500～5000	前日 1 回		
スピ [®] ノエスフロアブル	2000～4000	7 日前 2 回		
除虫菊乳剤 3	1000	10 日前 3 回		
サンクリスタル乳剤	300～600	前日 ー		
秋芽生育期 (8 月上～9 月上旬)	同上及び			<ul style="list-style-type: none"> ・ウカ、スリップスなどと同時防除する場合は適用のある剤を選択する。
	【その他の剤】			
	グレーシア乳剤	2000	14 日前 1 回	
	ハチハチ乳剤	1000～1500	14 日前 1 回	

チャノホソガと被害



成虫

卵

潜葉幼虫

三角巻葉中の幼虫と虫糞

(卵から潜葉幼虫が防除適期)



葉縁巻葉 (中に幼虫)

(薬剤防除効果あり)

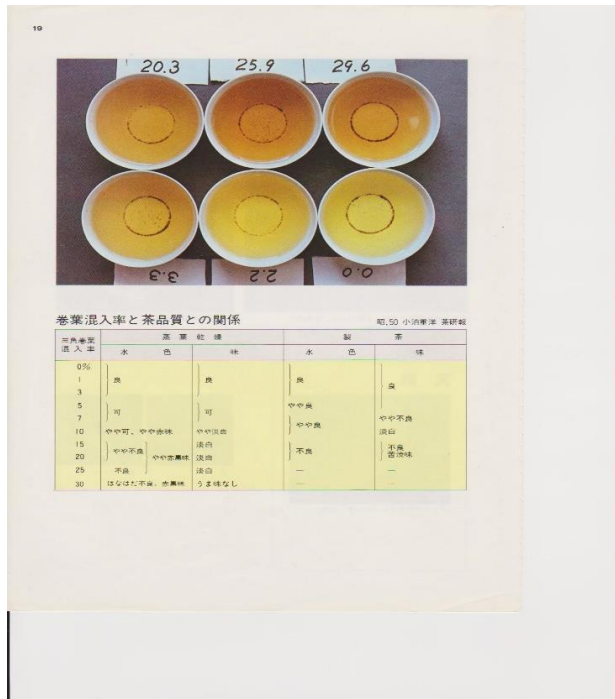
(BT 剤はこの時期に散布する)



三角巻葉

(中に虫糞を貯め、品質に影響する)

(この時期の防除効果はない)



(上段 20~30%)

収穫生葉への巻葉混入率が高くなると水色に影響する (下段左 3% 右 0%)